

科目名	教職概論	科目ナンバリング	KC2E3E12		
担当者	亀井 裕子				
担当形態	単独	単位数	2単位		
対象学科	未来創造学科	開設学年	2年次		
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
		必修			CF
備考					

授業のテーマ及び到達目標	人間形成の基礎を培う教育職員の責務は重要なものがあることを学ぶ。教育職員に関する職務の意義やその果たす役割、職制の概要について理解する。			
授業の概要	教育職員の職務や意義について理解する。 教育職員として必要な資質能力を身に付けるために現場の実践事例などを基に学ぶ。			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	教職の意義、目的① 教育観及び教職観について学ぶ	シラバスを読む	教育観や教職観についてまとめる
	2	教職の意義、目的② 社会が求める人材育成について考える	教職について調べる	人材育成についてまとめる
	3	教師の資質能力① 豊かな人間性、教育者としての使命感について学ぶ	教師の資質とは何かを考える	教師の人間性や使命感についてまとめる
	4	教師の資質能力② 子どもを取り巻く問題と教育のあり方	前時の振り返りをしておく	子どもの問題についてまとめる
	5	保育者の資質能力 幼児の発達について理解する	幼児の発達について調べる	幼児の発達についてまとめる
	6	幼稚園教諭の資質能力① 指導計画及び学級経営について学ぶ	幼児教育における指導計画について調べる	指導計画についてまとめる
	7	幼稚園教諭の資質能力② 園務分掌や幼児管理について学ぶ 保育者間の連携による専門性の発揮について	保育者の仕事について調べる	園の仕事についてまとめる
	8	教師の役割 教師の役割について知る	前時までの復習をする	教師の役割をまとめる

	9	幼稚園教諭の職務 幼稚園教諭の身分、服務について学ぶ	幼稚園教育要領 を読む	学んだことをまと める
	10	教師の職務 人間形成の支援について学ぶ	職務について調べ る	学びのまとめをす る
	11	教育課程編成の基本 実態と要請について考える	教育課程について 下調べをする	教育課程に関す る実態を掴む
	12	指導計画の作成 学級経営と教育活動について考える	指導計画について 下調べをする	分かったことをま とめる
	13	研修と勤務 教師の資質向上と教師の評価について学ぶ	教員の研修につ いて調べる	分かったことをま とめる
	14	今後の課題 これからの幼児教育とチーム学校としての教師のあり方について 考える	幼児教育の課題 について調べる	学びのまとめをす る
	15	教職についてのまとめ	これまでの資料に 目を通しておく	学びのまとめをす る

使用教科書	幼稚園教育要領、保育所指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領<原本>(最新版)(チャイルド社)
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	平常点	30%	意欲 態度
課題(レポート)	10%	テーマの理解 自分の考え 丁寧さ まとめ方	
試験	60%	理解度 自分の考え	

科目名	こども家庭支援論	科目ナンバリング	KC2E3E14		
担当者	岡村 ゆかり				
担当形態	単独	単位数	2単位		
対象学科	未来創造学科	開設学年	2年次		
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	選択		必修		BCF
備考					

授業のテーマ及び到達目標	【授業のテーマ】こども家庭に対する支援の意義と目的、こども及び子育て家庭を取り巻く環境や支援の現状と課題の理解を踏まえ、保育者としての保護者支援、家庭支援のあり方を考察する				
	【到達目標】 ①子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解することができる ②保育の専門性を活かしたこども家庭支援の意義と基本について理解することができる ③子育て家庭に対する支援の体制について理解することができる ④子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開とこども家庭支援の現状、課題について理解することができる				

授業の概要	この科目では、こども及び子育て家庭を取り巻く環境の理解を深め、子育て家庭への支援に関する保育士としての基本姿勢や支援内容、さらには、支援の実践方法・技術などを学びます。基本的には議題形式で行いますが、事例を用いたグループワークなどの演習形式で行う場合もあります。				
-------	---	--	--	--	--

授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	子ども家庭支援の意義と必要性	テキストの「はじめに」を読む	関心を持った事柄、わからなかった点を整理する
2	子ども家庭支援の目的と機能	提示された課題に取り組み、次の授業に持参する	関心を持った事柄、わからなかった点を整理する	
3	子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進 子育て家庭の福祉を図るための社会資源	提示された課題に取り組み、次の授業に持参する	関心を持った事柄、わからなかった点を整理する	
4	保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義	提示された課題に取り組み、次の授業に持参する	関心を持った事柄、わからなかった点を整理する	
5	子どもの育ちの喜びの共有	提示された課題に取り組み、次の授業に持参する	関心を持った事柄、わからなかった点を整理する	
6	保護者および地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援	提示された課題に取り組み、次の授業に持参する	関心を持った事柄、わからなかった点を整理する	
7	保育士に求められる基本的態度	提示された課題に取り組み、次の授業に持参する	関心を持った事柄、わからなかった点を整理する	
8	家庭の状況に応じた支援	提示された課題に取り組み、次の授業に持参する	関心を持った事柄、わからなかった点を整理する	

	9	地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力	提示された課題に取り組み、次の授業に持参する	関心を持った事柄、わからなかった点を整理する
	10	子ども家庭支援の内容と対象	提示された課題に取り組み、次の授業に持参する	関心を持った事柄、わからなかった点を整理する
	11	保育所等を利用する子どもの家庭への支援	提示された課題に取り組み、次の授業に持参する	関心を持った事柄、わからなかった点を整理する
	12	地域の子育て家庭への支援	提示された課題に取り組み、次の授業に持参する	関心を持った事柄、わからなかった点を整理する
	13	要保護児童およびその家庭に対する支援	提示された課題に取り組み、次の授業に持参する	関心を持った事柄、わからなかった点を整理する
	14	子育て支援に関する課題と展望	提示された課題に取り組み、次の授業に持参する	関心を持った事柄、わからなかった点を整理する
	15	まとめ(試験)	提示された課題に取り組み、次の授業に持参する	関心を持った事柄、わからなかった点を整理する

使用教科書	新・基本保育シリーズ④社会福祉 第2版(2023年)(中央法規)
参考書・参考資料等	適宜、資料を配付する。

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	期末試験	60%	理解の程度
課題/レポート	20%	課題への取り組み姿勢	
平常点(態度)	20%	参加態度、リアクションペーパー	

科目名	こども家庭支援の心理学	科目ナンバリング	KC2E3E15		
担当者	荒木 晴美				
担当形態	単独	単位数	2単位		
対象学科	未来創造学科	開設学年	2年次		
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	選択				ABF
備考					

授業のテーマ及び到達目標	<p>①生涯発達に関する心理学の基礎を学び、発達領域や発達理論を学ぶ意義について理解する。          ②家族・家庭の意義と機能を理解し、親子関係・家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。          ③子育て家庭に関する現状と課題について理解する。          ④子どもの精神保健とその課題について理解する。</p>			
授業の概要	<p>4つのテーマに沿って①より順に学んでいく。          人が生涯にわたって発達していく過程を、各時期の特徴や課題を学ぶ。個人と同じく家族もまた発達し、親も子育てを通じて発達・成長していくことの意味を学ぶ。          現代社会における家庭や子育ての現状と課題を学び、そうした家庭に対する支援も理解する。          子どもの心の健康について、環境との関連や、障がいや疾患の基本的な内容と合わせて学ぶ。</p>			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	授業のガイダンス 生涯発達とライフサイクル	エリクソンのライフサイクル論を調べておく	様々な発達領域・発達理論の関係について整理する
	2	乳幼児期から学童期前期にかけての発達	アタッチメントについて調べておく	心理社会的問題をまとめる
	3	学童期後期から青年期にかけての発達	ピアジェの認知発達理論について調べておく	自分自身のアイデンティティの状態を把握する
	4	成人期から老年期にかけての発達	成人期以降の生涯発達の課題を考えておく	成人期以降の発達の特徴と発達課題を整理する
	5	家族・家庭の意義と機能	自分なりに家族・家庭とは何か考察しておく	家族の現状を規模、構造、機能から整理する
	6	親子関係・家族関係の理解	多様な親子関係を調べておく	心理学の視点から親子関係の特徴をまとめる
	7	子育ての経験と親としての育ち	「親になる」とはどのようなことか考察しておく	親としての発達をまとめる
	8	子どもと家庭の状況	現代日本の家庭状況を調べておく	家庭状況の課題を整理する

	9	ライフコースと仕事・子育て	ライフコースと何か調べておく	ワーク・ライフ・バランスについてまとめる
	10	多様な家庭とその理解	ひとり親家庭の現状について調べておく	支援のあり方をまとめる
	11	特別な配慮を要する子どもと家庭	どのような特別な配慮があるか調べておく	保護者や外部機関との連携のポイントをまとめる
	12	なぜ子どもの精神保健を学ぶのか	精神保健とは何か調べておく	子どもの健康な発達を支える親子支援についてまとめる
	13	子どもの生活・生育環境とその影響	「感受期」「レジリエンス」について調べておく	環境と子どもの発達の関係性について整理する
	14	子どもの心の健康にかかわる問題①	「発達障がい」について調べておく	発達障がいの症状や支援の方法をまとめる
	15	子どもの心の健康にかかわる問題② まとめ	心の状態が関係する疾患を調べておく	その疾患の状態や対応についてまとめる

使用教科書	子ども家庭支援の心理学(北樹出版)
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	期末テスト	70%	学習内容理解
	課題・レポート	10%	記述内容
	平常点	20%	態度・行動観察・毎時間の振り返り

科目名	こどもの健康と安全	科目ナンバリング	KC2E3C16		
担当者	末武 けい子				
担当形態	単独	単位数	1単位		
対象学科	未来創造学科	開設学年	2年次		
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	選択		必修		ABF
備考					

授業のテーマ及び到達目標	保健活動の計画及び評価と心身の健康に関する保健活動や環境を理解する。また、体調不良に対する適切な対応と感染症対策・衛生管理並びに安全管理を理解して、保育現場において実践できる応用的知識と技術を習得する。			
授業の概要	保健の専門的知識を深めた上で、健康及び安全管理の体制づくりを学ぶ。また、体調不良児の対応や応急処置・救命処置及び感染症拡大防止を学び、健康・安全の管理は全職員及び保護者の共通理解の下、連携・協働して実施することを学ぶ。			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	オリエンテーション(こどもの健康と安全) 1、保健的観点をふまえた保育環境及び援助(1)保育環境	シラバスとテキストを熟読	自分の成功体験を確認し、学修のまとめをする
	2	(2)健康及び安全管理 (乳幼児等の視力・聴力・身長・体重測定体験)	テキストを熟読する	子どもの安全を考え、学修のまとめをする
	3	2、保育における健康及び安全管理 (1)衛生管理(手洗い体験) DVD(0歳児)視聴	テキストを熟読する	手洗いの仕方習得し、学修のまとめをする
	4	(2)事故防止及び安全対策 (子どもの口径体験)	テキストを熟読する	学修(安全対策)のまとめをする
	5	(3)危機管理 (4)防災への備え (子どもの視野体験)	テキストを熟読する	学修(防災)のまとめをする
	6	3、子どもの体調不良等に対する適切な対応 (1)体調不良や障害が発生した場合の対応 (2)応急処置(包帯持参)	応急処置について調べる	学修(応急処置)のまとめをする
	7	救急処置及び乳幼児の救命処置 消防署救急隊員による実技講習(2時間) ・心肺蘇生の手順	テキストを熟読する	学修(心肺蘇生)のまとめをする
	8	・AEDの使用手順 ・誤飲時の対応 ・エピペンの使い方	プリントを熟読する	学修(AED使用)のまとめをする

	9	4、感染症対策(嘔吐処理等) (1)感染症の集団発生の予防 (2)感染症発生時と罹患後の対応 レポート連絡	テキストを熟読する	学修(嘔吐処理等)のまとめをする
	10	5、保育における保健的対応 (1)保健的対応の基本的な考え方 (2)3歳未満児への対応(おむつ交換・人工乳・沐浴体験)	プリントを熟読する	学修(3歳未満児等)のまとめをする
	11	(3)個別的配慮を要する子どもへの対応 DVD(1~2歳児)視聴	プリントを熟読する	学修のまとめをする
	12	(4)障害がある子どもへの対応 DVD(3~5歳児)視聴 レポート提出	応急処置について調べる	学修のまとめをする
	13	6健康及び安全の管理と実施体制 (1)保育における保健活動の計画及び評価	テキストを熟読する	学修(保健計画)のまとめをする
	14	(2)職員間の連携・協働と組織的取組 (乳幼児健診体験)	テキストを熟読する	学修(乳幼児健診等)のまとめをする
	15	まとめ ・これまでの学修内容を総括する	これまでの学修内容を振り返る	これまでの学修内容の要点をまとめる

使用教科書	子どもの健康と安全 演習ノート(診断と治療社),
	適宜プリント配布
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	平常点(態度・行動観察)	10%	受講態度、実技の取り組み
	課題 / レポート	10%	内容の深さと自分の考え
	期末テスト	70%	筆記試験の点数
	毎時間の振り返り	10%	提出状況、内容の充実

科目名	こどもの食と栄養	科目ナンバリング	KC2E3E17		
担当者	池上 由美				
担当形態	単独	単位数	2単位		
対象学科	未来創造学科	開設学年	2年次		
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	選択		必修		ABF
備考					

授業のテーマ及び到達目標	保育者として、栄養教育・食教育の支援方法を修得する			
授業の概要	こどもの食生活は、生活習慣の基礎となり、将来の健康を左右する 幼児の身体的(発育・発達)特徴を知り、栄養とその機能の基礎・役割と、幼児期の適切な食の選択と食べ方を学ぶ			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	オリエンテーション 子どもの健康と食生活の意義Ⅰ ・こどもの食と健康を概観する ・小児期の栄養と食生活の意義	シラバスの確認	テキスト・配付資料の見直し
	2	子どもの健康と食生活の意義Ⅱ ・身体発育と栄養状態の把握 ・食べる機能・消化吸収機能の発達	前回、指示をしたテキストのページを予習	テキスト・配付資料の見直し
	3	栄養に関する基礎知識Ⅰ ・栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能 ・食物連鎖	前回、指示をしたテキストのページを予習	テキスト・配付資料の見直し
	4	栄養に関する基礎知識Ⅱ ・日本人の食事摂取基準 ・食事構成に関する基礎知識	前回、指示をしたテキストのページを予習	テキスト・配付資料の見直し
	5	栄養に関する基礎知識Ⅲ ・食事バランスガイドとは ・食事バランスガイドの作成	前回、指示をしたテキストのページを予習	食事バランスガイドの内容を整理する
	6	生涯発達と食生活 妊娠・授乳期の栄養と食生活 ・ライフサイクルと食生活 ・妊婦の瘦身願望と胎児への影響	前回、指示をしたテキストのページを予習	食生活を振り返り次世代の栄養摂取について考える
	7	乳児期の食生活Ⅰ ・食機能の発達と成長 ・乳汁栄養・調乳方法の確認	前回、指示をしたテキストのページを予習	調乳方法をまとめる
	8	乳児期の食生活Ⅱ ・離乳の意義とその実践 ・離乳時期の忌避食品の確認	前回、指示をしたテキストのページを予習	成人の献立から離乳食を展開する

	9	幼児期の食生活Ⅰ ・食機能の発達と成長 ・幼児期の栄養・食生活の実態 ・保育者としての対応	前回、指示をしたテキストのページを予習	幼児期の食生活について対応を考える
	10	幼児期の食生活Ⅱ ・間食の意義とその実践 ・間食の与え方 ・幼児期の弁当	前回、指示をしたテキストのページを予習	間食内容を考える
	11	特別な配慮を要するこどもの食と栄養 ・疾病および体調不良の子どもへの対応 ・食物アレルギー	前回、指示をしたテキストのページを予習	食物アレルギーの保育者の対応を考える
	12	児童福祉施設における食生活 ・各施設の食生活 保育所 乳児院	前回、指示をしたテキストのページを予習	各施設の特徴を復習する
	13	学齢期の食生活上の問題 ・学齢期の食生活 こ食 食育の動向	前回、指示をしたテキストのページを予習	学齢期の食課題をまとめ、対策を考える
	14	保育者による食育・栄養教育 ・食育 ・発育・発達過程に応じて育てたい “食べる力”とは	前回、指示をしたテキストのページを予習	保育所等における食育の実際を調べる
	15	まとめと試験（総復習） ＊これまでの講義・演習内容を総括し、理解を深める	これまでの授業内容を熟知しておく	

使用教科書	「第7版 子どもの食生活―栄養・食育・保育―」(ななみ書房),
	授業ごとに資料を配付する
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	筆記試験	60%	
平常点（行動観察）	30%	授業の取り組み・参加態度など	
課題提出	10%	提出期日の順守	

科目名	保育内容(健康)	科目ナンバリング	KC2E2E18		
担当者	石岡 ひろみ				
担当形態	単独	単位数	2単位		
対象学科	未来創造学科	開設学年	2年次		
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	選択必修	必修	必修		A
備考					

授業のテーマ及び到達目標	領域「健康」は、「健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う」ことを目指す。園において育みたい資質能力について理解し、領域「健康」のねらい及び内容について背景にある専門領域と関連させて理解を深め、乳幼児の発達に即して、主体的・対話的な学びが実現する過程をふまえて、具体的な指導場面を想定し保育を構想する方法を身に付ける。			
授業の概要	健康な心と体の基礎をつくる乳幼児期の発育・発達の特徴、及び自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養うための環境構成や援助の仕方について学ぶ。また、健康に関する具体的な保育構想の向上に取り組む。			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	オリエンテーション ・健康とは何か ・領域「健康」の理解	「健康」とは何か考えておく	健康な心と体を育むために必要な環境を考える
	2	幼児期にふさわしい生活 ・体をよく動かす子どもを育てる	子どもを取り巻く環境を考える	子どもの健康な生活に大切なことは何か
	3	子どもの身体の発育・発達 ・形態的発育 ・生理的機能の発達	身近な乳児、幼児、子ども、大人の違いを考える	乳幼児の体の発育・発達の為の支援を考える
	4	0歳児から3歳児未満児の運動発達と環境 ・ICTの活用	乳幼児期の身体発達の方向性についてまとめておく	運動の発達と保育者の援助について考える
	5	3歳以上児の運動発達と環境 ・ICTの活用	スキヤモンの発育曲線について調べておく	遊具における子どもの動きを増やす工夫を考える
	6	運動遊びへの関わり ・ICTの活用	運動が苦手な子どもへの関わりを考えてみる	動きのバリエーションを豊かにする工夫を考える
	7	幼児の運動能力の現状と発達に影響を及ぼす要因	自身の幼児期の運動経験を振り返っておく	運動能力の発達に影響を及ぼす要因を具体的に考える
	8	幼児期の安全教育とけがの予防 ・ICTの活用	乳幼児期のけがや事故の事例を調べておく	リスクとハザードについて自身の体験を基に振り返る

	9	乳幼児期の生活習慣の形成 ・具体例に学ぶ	生活習慣の獲得についてその工夫を保護者に尋ねておく	食育の推進についてまとめておく
	10	乳幼児期の遊びと運動 ・様々な運動遊び ・多様な動き	幼児期の運動体験で頑張ったことを書き出す	遊びとしての運動指導と動機づけについてまとめる
	11	乳幼児期の生活と食 ・日常生と食の環境	乳幼児の食事内容を想像しておく	乳幼児の食育の目標をまとめる
	12	領域「健康」の理解と指導法 ・教材研究 ・映像資料、音楽再生機器、ICTの活用	「健康な」乳幼児の姿を具体的に挙げる	健康な心と体を育む環境についてまとめる
	13	領域「健康」をめぐる現代的問題 ・体験による理解	乳幼児期の子どもについて気になる点を書き出す	問題に関わる保育者の役割をまとめる
	14	指導案作成から保育へ ・教材研究 ・ICTの活用	園生活での食育活動を考えておく	実際に指導案を作成してみる
	15	指導案作成から保育へ まとめ	健康・安全についての子どもの学びを考えておく	健康・安全教育について教材研究をしてみる

使用教科書	演習 保育内容「健康」—基礎的事項の理解と指導法—(株式会社 建帛社),
	平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領<原本>(株式会社)
参考書・参考資料等	授業中、適宜資料配付

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
		期末テスト	50%
	課題／発表／振り返り	30%	課題への取り組み方、発表の内容
	平常点(態度)	20%	保育者の視点をもった積極的な取り組み

科目名	保育内容(人間関係)	科目ナンバリング	KC2E2E19		
担当者	松岡 和男				
担当形態	単独	単位数	1単位		
対象学科	未来創造学科	開設学年	2年次		
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	選択必修	必修	必修		ABCD
備考					

授業のテーマ及び到達目標	<p>幼児を取り巻く人間関係をめぐる現代的課題を理解する。</p> <p>幼児期の人間関係の発達について、幼稚園生活における関係発達論的視点から理解する。</p>			
授業の概要	<p>現代の幼児の人間関係の育ちに影響を与えている社会的要員について理解し、幼児教育で保障すべき教育内容に関する知識を身に付ける。</p> <p>特に、「人間関係」の指導の基盤となる基礎理論として、関係発達の視点について学び、他者との関係や集団との関係の中で幼児期の人と関わる力が育つことを理解する。</p>			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	オリエンテーション 現代社会と幼児の人間関係 ～家庭・地域での経験と幼児教育に期待されるもの	シラバスをもとに、 学習内容の見通し を立てる	学んだことをまと める
	2	3歳未満児における人間関係の発達 ～身近な大人との関係を基盤として育つ子ども 【映像資料を活用して】	テキストや参考資 料の該当箇所を 読んでおく	幼児教育の特性 についてまとめる
	3	幼児の遊びや生活の中で見られる人と 関わる力の育ち ～関係性の育ちや個と集団の育ちを視点として	幼児の遊びや生 活について、自分 でまとめておく	配布資料を読み 直す
	4	乳幼児期の自立心の育ち ～「イヤ」「ジブンデ」から始まる自 立への道 *グループ活動による模擬保育	乳幼児期の自立 心について、復習 しておく	学修内容を振り返 り、整理する
	5	幼児期の協同性の育ち ～目標を共有し協力してやり遂げよう とする力の育ち	テキストや参考資 料の該当箇所を 読んでおく	配布資料を読み 直す
	6	幼児期の道徳性・規範意識の芽生えと育ち ～他者との葛藤体験を通して身に付ける力の育ち	幼児期の道徳性 についてテキスト で確認しておく	学修内容をふり返 り、資料を読み直 す
	7	乳幼児期の人間関係のひろがり ～家庭生活・園生活・地域へと ひろがる場と関係性	テキストや参考資 料の該当箇所を 読んでおく	学修内容をふり返 り、資料を読み直 す
	8	乳児期に育みたい資質・能力と人間関係 ～乳幼児期から学童 期以降の育ちのつながりを理解する *部分指導案の作成	乳幼児期から学 童期以降のつな がりについて考え ておく	学修内容をふり返 り、資料を読み直 す


使用教科書	新保育ライブラリ「保育内容 人間関係」(北大路書房)
参考書・参考資料等	平成29年度告示 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」(チャイルド)

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	定期試験	50%	課題についての内容充実、自分の考え
	毎時の振り返りワーク	40%	内容理解の深さと自分の考え
	平常点	10%	積極性、出席時数は、4/5以上が必要

科目名	保育内容(環境)	科目ナンバリング	KC2E2E20		
担当者	松岡 和男				
担当形態	単独	単位数	1単位		
対象学科	未来創造学科	開設学年	2年次		
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	選択必修	必修	必修		ABCDF
備考					

授業のテーマ及び到達目標	<p>幼児を取り巻く環境と、幼児の発達にとっての意義を理解する。          幼児期の思考・科学的概念の発達を理解する。          幼児期の標識・文字等、情報・施設との関わりの発達を理解する。</p>			
授業の概要	<p>領域「環境」の指導で必要となる感性を養い、教育内容に関する知識・技能を身に付ける。          特に領域「環境」の指導の基礎となる、現代の幼児を取り巻く環境とその現代的課題、幼児と身近な環境との関わりの発達などについて学ぶ。</p>			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	オリエンテーション 現代社会の幼児を取り巻く環境と課題～環境の諸側面(物的・人的・安全等)、知識基盤社会、ESD等	シラバスをもとに、学習内容の見通しを立てる	学んだことをまとめる
	2	乳幼児の発達における環境との関わり ～乳幼児の環境との関わりを捉える 心理学的観点【映像資料】	テキストや参考資料の該当箇所を 読んでおく	幼児教育の特性 についてまとめる
	3	乳幼児期・児童期の認知的発達 ～乳幼児期・児童期の認知的発達の特徴	乳幼児の認知的 発達についてテキ ストで確認する	配布資料を読み 直す
	4	乳幼児の物理的、数量・図形との関わり ～乳幼児の物理的、数量・図形との関わりと具体的な活動(おもちゃづくり等)	自分自身が乳幼 児期に興味をも った対象について調 べる	学びを通して、自 分自身の乳幼児 期を振りかえる
	5	乳幼児の自然と関わり① ～乳幼児の生物・自然の関わりと 具体的活動事例(自然物の遊び他)	自然環境の具体 例を考え、準備し ておく	配布資料を読み 直す
	6	乳幼児の自然と関わり② ～乳幼児生物・自然の関わりと具体的活動事例(自然体験活動・フィールドワーク等)	テキストや参考資 料の該当箇所を 読んでおく	フィールドワー クでの気づきなど をまとめる
	7	乳幼児の標識・文字等との関わり ～乳幼児を取り巻く標識・文字環境と、それらに関わる具体的な 活動事例(生活の中の標識・文字探し等)	周囲にある標識や 文字についてスマ ホ写真で撮ってお く	学修内容をふり返 り、資料を読み直 す
	8	乳幼児の情報・施設との関わり ～乳幼児の生活に関係の深い情報・ 施設と、それらに関わる具体的な 活動事例に部分指導案作成	乳幼児に関わる 施設とその役目 について調べてお く	学修内容をふり返 り、資料を読み直 す


使用教科書	保育内容「環境」～あなたならどうしますか？(萌文書林)
参考書・参考資料等	平成29年度告示 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」(チャイルド)

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	定期試験	50%	課題についての内容充実、自分の考え
	毎時の振り返りワーク	40%	内容理解の深さと自分の考え
	平常点	10%	積極性、出席時数は、4/5以上が必要

科目名	保育内容(言葉)	科目ナンバリング	KC2E2E21		
担当者	楯山 範夫				
担当形態	単独	単位数	2単位		
対象学科	未来創造学科	開設学年	2年次		
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	選択必修	選択必修	選択必修		ABCD
備考					

授業のテーマ及び到達目標	<p>○子どもの言葉の育ちと保育者の役割</p> <p>人は言葉によって認識し、思考し、人とのつながりを深めていく。乳幼児は、身近な人との関わりの中で言葉に関心を持ち、言葉を獲得していく。そんな子どもたちの言葉の発達過程や育ちを支える保育者のかかわり方を身につける。</p>			
授業の概要	<p>幼稚園教育要領、保育所保育指針等における領域「言葉」のねらいと内容を理解するとともに、乳幼児期の言葉の発達について理解していく。子どもの言葉の育ちを支える保育者の役割と援助の在り方、人的・文化的環境の在り方等について実践的に学ぶ。</p>			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	領域「言葉」① 領域「言葉」のねらい及び内容について知り、子どもの言葉の捉え方について考える。	領域「言葉」のねらいと内容について調べる。	領域「言葉」のねらいと内容についてまとめる。
	2	領域「言葉」② 言葉の感覚、領域「言葉」と教科「国語」の違いや関係について考える。	領域「言葉」のねらいと内容について調べる。	領域「言葉」と教科「国語」の関連を整理する。
	3	子どもと言葉① 言葉のはたらき、身近な世界とかかわる言葉について考える。	言葉にはどんなはたらきがあるかを調べて考える。	言葉のはたらき、かかわりと言葉について整理する。
	4	子どもと言葉② 生活における言葉の体験、言葉が出る条件について考える。	どんな体験が子どもの言葉を育てるかについて考える。	生活と言葉、体験と言葉について整理する。
	5	言葉の発達① 言葉の前の言葉、言葉の発達過程について考える。	乳幼児と接した経験から言葉に関わることを想起する。	子どもの言葉の発達過程について整理する。
	6	言葉の発達② 文字への興味・関心、個々の言葉の発達への配慮について考える。	乳幼児と接した経験から文字に関わることを想起する。	個々の言葉の発達への配慮について考えて整理する。
	7	言葉と環境① 言葉と人的環境、人的環境としての保育者の役割について考える。	言葉にかかわるどんな人的環境があるか考える。	よりよい人的環境について考えて整理する。
	8	言葉と環境② 言葉と文化的環境、文化に触れる意味について考える。	言葉にかかわるどんな文化的環境があるか考える。	文化的環境をどのように活用するか考え整理する。

	9	児童文化財の活用 児童文化財とは何かについて知り、絵本・童話・紙芝居・人形劇について考える。	これまでに読んだ心に残る絵本等について想起する。	絵本を読み、読み聞かせをしたい絵本を選択する。
	10	読み聞かせの実際① 絵本の読み聞かせの方法について考え、練習する。	読み聞かせしたい絵本の紹介の準備をする。	絵本の読み聞かせの準備と練習をする。
	11	読み聞かせの実際② 読み聞かせを実践し、読み聞かせの評価及び改善について話し合う。	絵本の読み聞かせの準備と練習をする。	絵本の読み聞かせの練習をする。
	12	創作絵本の実際① 創作する絵本について話し合う。	絵本の構想を立てる。	絵本をつくり始める。
	13	創作絵本の実際② グループで協力して絵本をつくる。	絵本づくりを進めておく	絵本を完成させる。
	14	創作絵本の実際③ つくった絵本を読み合い、感想を交流する。	つくった絵本のよさをまとめておく。	つくった絵本を評価し、改善についてまとめる。
	15	子どもの言葉を育てる 子どもを取り巻く言語環境、豊かな言葉を育てる保育者について発表し合う。	子どもを取り巻く言語環境の課題について考える。	子どもの言葉をどう育てていきたいかをまとめる。

使用教科書	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領(最新版)(チャイルド社)
参考書・参考資料等	適宜、資料を配付する。

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
		期末試験・レポート	50%
	課題への取組	30%	事前準備・意見発表・事後整理の状況
	平常点	20%	意見交流への前向きな参加態度

科目名	保育内容(表現)	科目ナンバリング	KC2E1C22		
担当者	石岡 ひろみ				
担当形態	単独	単位数	2単位		
対象学科	未来創造学科	開設学年	2年次		
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	必修	必修	必修		A
備考					

授業のテーマ及び到達目標	領域「表現」は、「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」ことを目指す。保育・教育において育みたい資質能力を理解し、領域「表現」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深め、乳幼児の発達に即して、主体的・対話的な学びが実現する過程をふまえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。			
授業の概要	子どもの豊かな感性や表現を更に引き出す有効な言葉掛けや環境について学び合い、指導案作成や模擬保育を実践する。表現あそびの具体的な指導場面を想定し、保育構想の向上に取り組む。			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	オリエンテーション ・表現とは ・領域「表現」のねらいと内容について	表現とは何か、調べておく	園における表現活動を鑑賞しその背景をまとめる
	2	乳幼児の発達と「表現」 ・様々な発達	発達とは何か、まとめておく	様々な観点からの発達をまとめる
	3	意味受容・意味生成としての身体 ・ICTの活用	子どもの状態(行動)と意味について考えておく	日常の中で同調する(響き合う)場面を書いてみる
	4	領域「表現」の内容と評価 ・幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿 ・模擬保育	表現のねらい・目標・内容を確認しておく	模擬保育を基に指導案を考えてみる
	5	「表現」を生む場の捉え方、作り方 ・表現と環境構成 ・ICTの活用	面白い形のものを見つけて画像記録しておく	豊かな感性、表現する力、豊かな創造性を考える
	6	子どもの「生活」と「表現」 ・受け止めること・表すこと ・コミュニケーションとしての表現	子どもの行動を観察し、記録しておく	子どもと大人のコミュニケーションの違いを書く
	7	音楽的表現 ・楽しさを共につくる手遊びの魅力 ・音楽的表現を通しての成長/模擬保育	子どもの音楽表現にはどのようなものがあるか	模擬保育における保育者の配慮を考える
	8	造形的表現 ・様々な素材 ・自分らしい表現を楽しむ	子どもの造形表現にはどのようなものがあるか	自身の造形あそびを振り返る

	9	ごっこ遊び・劇的表現(1) ・なりきって遊ぶ ・イメージして動く	自身が経験した ごっこ遊びを記録 しておく	表現の楽しさを生 み出す要因を考 察する
	10	ごっこ遊び・劇的表現(2) ・プロセスを大切にした劇的表現 ・ICTの活用	子どもの劇遊びを 見て気づきをまと めておく	どのような資質・ 能力が育まれた かまとめる
	11	ごっこ遊び・劇的表現(3) ・劇的表現の実際 ・模擬保育	ごっこ遊び・劇遊 びから10の姿に繋 がるものを書く	生活や遊びの中 から劇遊びのモ チーフを見出す
	12	表現を支える保育者の役割 ・表現を受け止める ・子どもと共に楽しむ	幼児の表現を受 け止めるとは具体 的に何か	自身の表現遊び を振り返りその面 白さを追求する
	13	領域「表現」をめぐる現代的な課題 ・子どもの権利 ・小学校へ繋ぐ・連携	自身の幼児期か ら小学校へ、繋 がった事柄を書く	子どもの表現を守 ることの意味につ いて考察する
	14	子どもの表現を支える指導計画(1) ・表現を支える ・遊びを援助する保育者	見通しをもった保 育計画とは何か	自身の感性も大 切にした指導計画 を仕上げておく
	15	子どもの表現を支える指導計画(2) ・導入の仕方を学び合う ・まとめ	活動に必要なもの の用い方をまとめ ておく	子どもの興味、関 心、意欲の方向 捉えのまとめ

使用教科書	幼稚園教育要領(最新版)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(最新版)、保育所保育指針(最新版)(チャ 演習 保育内容「表現」—基礎的事項の理解と指導法—(建帛社)
参考書・参考資料等	適宜資料配付,

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
		期末テスト(実技)	50%
	課題／発表／振り返り	30%	課題への取り組み方、発表の仕方
	平常点(態度)	20%	保育者の視点をもった積極的な取り組み

科目名	表現技術	科目ナンバリング	KC2E1C23		
担当者	石岡 ひろみ				
担当形態	単独	単位数	2単位		
対象学科	こども学科	開設学年	3年次		
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	必修	必修	必修		ABCDEF
備考					

授業のテーマ及び到達目標	ゆたかな表現を通して子どもたちが自らやってみいたいという意欲を持つことができる様な保育者の表現技術、支援、指導法を見出し、実践できるよう学ぶ。			
授業の概要	子どもたちが心を動かしたり、感性を働かせたりする一助となるように、保育者自身の感性を高め、表現技術を磨き合う。指導案作成や模擬保育に、熱心に取り組む。			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	オリエンテーション ミニシアターの成り立ちと特徴について 導入、手あそび、絵本の読み聞かせ	おすすめの絵本を準備しておく	ミニシアターについて整理しておく
	2	手あそび、歌あそび、絵本の読み聞かせ 紙芝居の効果的な使い方・演じ方 ミニシアターを保育に活かす	おすすめの手あそび、歌あそびを準備しておく	ミニシアターの活かし方をまとめる
	3	絵本の効果的な使い方・演じ方 手あそび、歌あそび ミニシアターを用いた保育の展開と効果的な演じ方	ミニシアター、手あそび等工夫して演じてみる	ミニシアター等の演じ方を振り返る
	4	絵本の読み聞かせ実践 パネルシアターの誕生と魅力 手あそび、歌あそび	パネルシアターの題材を探しておく	パネルシアター制作の工夫を考える
	5	絵本の読み聞かせ実践 パネルシアターを用いた保育の展開 手あそび、歌あそび	パネルシアター制作の準備をする	仕上げたパネルシアターの活かし方を考える
	6	パネルシアターの効果的な使い方・演じ方 手あそび、歌あそび、絵本の読み聞かせ	パネルシアターの導入を検討しておく	何度も演じてみる
	7	パネルシアターを表現豊かに演じて子どもたちとコミュニケーションを図る 模擬保育の実践	発表の準備をする	実際にどう活かすかまとめる
	8	日常保育に活かせる保育技術 映像を活用した保育を考える 部分保育・指導案の作成	実習の手引きを準備し指導案に目を通す	指導案の作成について振り返る

	9	日常保育に活かせる表現技術 季節のお話、伝承あそび ペープサートの活用 手あそび、歌あそび、絵本の読み聞かせ	表現技術にはどのようなものがあるか考える	日常保育における表現技術について整理する
	10	エプロンシアターの誕生と魅力 手あそび、歌あそび、絵本の読み聞かせ	エプロンシアターの題材を考えておく	エプロンシアター制作に向け準備を進める
	11	エプロンシアターの仕掛けと工夫 手あそび、歌あそび、絵本の読み聞かせ	エプロンシアターの工夫を考える	エプロンシアター完成に向け準備を進める
	12	エプロンシアターの効果的な使い方 指導案作成 手あそび、歌あそび、絵本の読み聞かせ	エプロンシアターの活かし方について考える	エプロンシアター完成に向け準備を進める
	13	エプロンシアターの演じ方 手あそび、歌あそび、絵本の読み聞かせ	エプロンシアターの演じ方について考える	エプロンシアター発表の準備をする
	14	手作りのエプロンシアターをいきいきと演じて、子どもたちとのコミュニケーションを楽しむ方法を学ぶ	表現豊かにエプロンシアターを演じる練習をする	エプロンシアター発表の準備をする
	15	手作りのエプロンシアターをいきいきと演じて、子どもたちとの関わり、伝えたいことを明確にする / 表現技術のまとめ	表現技術の集大成としてエプロンシアターを発表する	これまでの学修を振り返りまとめる

使用教科書	平成29年度告示/幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(チャイルド本社)
参考書・参考資料等	授業中、適宜資料配付

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	期末試験(実技)	50%	理解度、独自性
課題/発表/振り返り	30%	課題への取り組み方、発表の仕方	
平常点(態度)	20%	保育者の視点をもった積極的な取り組み	

科目名	乳児保育 I	科目ナンバリング	KC2E3E24		
担当者	沖田 秀子				
担当形態	単独	単位数	2単位		
対象学科	未来創造学科	開設学年	2年次		
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	選択		必修		ABF
備考					

授業のテーマ及び到達目標	広く乳幼児(3歳未満児)の発達と保育について学び、保育現場での具体的な課題を討議しながら考え、問題解決の方法を理解し、実践できるようになる			
授業の概要	わが国における乳児保育の変遷と理論や知識・技術の基本を具体的な事例を通して理解し、保育者としての役割を理解する			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	オリエンテーション誕生までのタイムライン、胎内環境を学ぶ	シラバスを熟読する	胎児の成長をまとめる
	2	誕生から7か月までの体の発達の特徴と保育の中で大切にすべきこと、全身運動の発達を学ぶ(プリントで説明)	教科書、発達の過程を熟読する	発達についてまとめる
	3	7か月から1歳3か月までの体の発達の特徴と保育の中で大切にすべきこと、全身運動の発達を学ぶ(プリントで説明)	教科書、発達の過程を熟読する	発達についてまとめる
	4	0～1歳までの手の発達の特徴と保育の中で大切にすべきこと、手の運動発達を学ぶ(プリントで説明)	教科書、発達の過程を熟読する	発達についてまとめる
	5	0・1・2歳児の保育環境DVDを観ながら環境を考える	教科書、発達の過程を熟読する	DVDを観ての気づきをまとめる
	6	授乳と離乳食について理論を理解し、援助の仕方を学ぶ	教科書の授乳、離乳食について熟読する	理論についてまとめる
	7	0～2歳児の言葉の発達と関わり(1)乳児の聴覚、言葉の発達を理解する	基礎理論、言葉とコミュニケーションの発達	理論についてまとめる
	8	0～2歳児の言葉の発達と関わり(2)1・2歳児の言葉の発達を理解する	基礎理論、言葉とコミュニケーションの発達	理論についてまとめる

	9	0～1歳児の遊びの内容と実践 教材の紹介、実践、遊びの紹介	教科書、体験と遊びを熟読する	遊びの内容をまとめる
	10	1～2歳児の遊びの内容と実践 教材の紹介、実践、遊びの紹介	教科書、体験と遊びを熟読する	遊びの内容をまとめる
	11	乳幼児の心の発達泣くことから、第一反抗期までの発達を学ぶ	認知の発達を熟読する	理論についてまとめる
	12	乳幼児保育における大人の役割子どもの育ちに対して大人の関わりを学ぶ	教科書、「人と関係をもつ育ち」を熟読する	実践を通して体験をまとめる
	13	生活習慣の自立に向けて(沐浴・着脱・排泄・睡眠・安全・清潔・健康作り)理論と実践を通して大人の援助の仕方を学ぶ	教科書、援助の実際を熟読する	実践を通して体験をまとめる
	14	まとめ・グループ討議乳幼児の心身の発達を再確認し、グループでまとめて発表する	授業を振り返り自分なりの課題をまとめる	援助の仕方を考え、まとめる
	15	テスト 試験、これまでの講義、演習内容を総括し、理解を深める	総復習	総復習

使用教科書	養成校と保育室をつなぐ理論と実践(萌文書林)
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	平常点(態度・行動観察)	20%	積極的な取り組み、出席回数が2/3を満たす
	課題／レポート 2回	60%	内容の深さと自分の考え
	グループ討議と発表	20%	理解度
	毎時間の振り返り		

科目名	乳児保育Ⅱ	科目ナンバリング	KC2E3E24		
担当者	沖田 秀子				
担当形態	単独	単位数	1単位		
対象学科	こども学科	開設学年	3年次		
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	選択		必修		ABF
備考					

授業のテーマ及び到達目標	乳児保育Ⅰで学んだ知識をより深め考察して保育者としての役割を学習する。			
授業の概要	多岐にわたる専門領域の知識を学び、高い専門性と実践力を備えた保育者を目指す。			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	乳児保育の制度と課題を学ぶ	教科書①、保育制度を熟読する	保育制度をまとめる
	2	乳児保育の基本と重要性を学ぶ	教科書②を熟読する	乳児保育とは何かをまとめる
	3	保育の原理と保育内容を理解する	教科書④を熟読する	保育内容についてまとめる
	4	乳児期の心身の発達と援助の仕方を学ぶ	教科書⑤心身の発達を熟読する	発達についてまとめる
	5	乳児期の心身の発達と援助の仕方を学ぶ	教科書⑤援助の仕方を熟読する	援助の仕方をまとめる
	6	保育士の専門性・実践力を学ぶ	教科書③を熟読する	保育士の専門性をまとめる
	7	乳児保育における計画と実際を学ぶ	保育計画を熟読する	保育計画の書き方をまとめる
	8	これまでの講義のまとめをする	総復習	総復習


使用教科書	養成校と保育室をつなぐ理論と実践I・II(萌文書林)
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	平常点(態度・行動観察)	20%	積極的な取り組み、出席回数が2/3を満たす
	課題／レポート 2回	60%	内容の深さと自分の考え
	グループ討議と発表	20%	理解度

科目名	特別支援教育論	科目ナンバリング	KC2E3E26		
担当者	河田 将一				
担当形態	単独	単位数	1単位		
対象学科	未来創造学科	開設学年	2年次		
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
		必修			ABF
備考					

授業のテーマ及び到達目標	①障害の特性、心身の発達、学習上・生活上の困難等の基礎的知識について理解し例示することができる。②特別支援教育に係る教育課程や支援方法を理解し例示することができる。③特別支援教育の体制整備、個別の指導計画及び個別の教育支援計画の作成、他機関等との連携について、その必要性と方法を理解し説明することができる。④母国語や貧困の問題等がもたらす特別の教育的ニーズに対しての組織的対応の必要性を理解し説明することができる。			
授業の概要	発達障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒が通常の学級にも在籍している現状を踏まえ、当該幼児、児童及び生徒が主体的に学習し、生きる力を身に付けていくために、彼らの学習上又は生活上の困難を理解した上で、個別の教育的ニーズを把握し、園・学校総体として関係機関とも連携した組織的対応をしていくために必要な知識や支援方法を理解する。			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	障害特性の理解と支援方法(1)障害特性、学習上・生活上の困難の理解	参考書の中から、授業と関連する記事等を読んでおく	配布物と書き取ったノートをもとめてテキストを自作
	2	障害特性の理解と支援方法(2)障害特性、学習上・生活上の困難を踏まえた支援方法の理解(1)アセスメントに基づく指導と支援を中心に	参考書・配布物中から、授業と関連する記事等を読んでおく	配布物と書き取ったノートをもとめてテキストを自作
	3	障害特性の理解と支援方法(3)障害特性、学習上・生活上の困難を踏まえた支援方法の理解(2)ユニバーサルデザインの視点に立った授業づくり・指導と支援を中心に	参考書・配布物中から、授業と関連する記事等を読んでおく	配布物と書き取ったノートをもとめてテキストを自作
	4	特別支援教育の教育課程インクルーシブ教育システムの構築、就学先等の決定プロセスに関する理解、特別支援学校・特別支援学級・通級による指導に関する制度・内容の理解、自立活動とその内容の理解、交流及び共同学習の理解	参考書・配布物中から、授業と関連する記事等を読んでおく	配布物と書き取ったノートをもとめてテキストを自作
	5	特別支援教育の体制整備 特別支援教育コーディネーターの指名、園・校内委員会の位置付け、研修の充実、特別支援学校のセンター的機能の活用、データベースの活用、ケース検討会の充実	参考書・配布物中から、授業と関連する記事等を読んでおく	配布物と書き取ったノートをもとめてテキストを自作
	6	個別の指導計画・教育支援計画の作成等PDCAサイクルに基づく個別の指導計画、個別の教育支援計画の作成、他機関との連携の重要性、移行支援の重要性	参考書・配布物中から、授業と関連する記事等を読んでおく	配布物と書き取ったノートをもとめてテキストを自作
	7	特別な教育的ニーズの理解と対応 母国語や貧困の問題等がもたらす特別の教育的ニーズの理解と組織的対応	参考書・配布物中から、授業と関連する記事等を読んでおく	配布物と書き取ったノートをもとめてテキストを自作
	8	試験と総括講義 試験とこれまでの授業の総括としての講義	これまで作った自作テキストで総復習しておく	配布物と書き取ったノートをもとめてテキストを完成


使用教科書	毎回、授業データを書取り又は配布し、1冊のテキストが完成できるようにする。
参考書・参考資料等	特別支援教育研究(東洋館出版社:月刊),
	実践みんなの特別支援教育(学研:月刊)、特別支援教育(文部科学省:季刊)など

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	平常点	20%	本科目への関心・態度・意欲
	課題/レポート	30%	知識、理解度、思考力、判断力、表現力
	期末テスト	50%	知識、理解度、思考力、判断力、表現力

科目名	保育の心理学	科目ナンバリング	KC2E3E27		
担当者	竹下 健太				
担当形態	単独	単位数	2単位		
対象学科	こども学科	開設学年	3年次		
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	選択		必修		ABCF
備考					

授業のテーマ及び到達目標	保育に必要な心理学の発達理論等を用いて子どもの発達を理解、子どもの発達に関する心理学を学修することで、子どもの発達に合わせ養護と教育が一体となった援助を行えるようになる。乳幼児期の子どもの学びの過程や特性を理解し、対人的相互作用や体験、環境を生かした保育ができるようになる。			
授業の概要	これから保育士を目指す方や、保育に関心がある方に知っておいてもらいたい人の生涯発達及びその観点から考えた保育について授業を行う。			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	人としての発達を理解することの意義をふまえ、こどもの発達に影響を与える社会的・文化的・制度的環境について学修	こどもの発達を理解することの意義について予習	発達に影響を与える環境要因について調査する
	2	保育者・養育者のもつこども観・保育観がこどもの発達にどのように影響を与えるかについて学修	自分の持つこども観・保育観についてまとめる	様々なこども観・保育観を調べて比較する
	3	社会的情動の発達の基礎となる養育者や保育者との愛着関係と、それを基盤としてこども同士の関わり合いが始まる様子を学修	愛着とは何かについて調べてまとめておく	大人との関わりの、こどもとの関わりへ影響を調べる
	4	こども同士の関わり合いが進展していく中で、どのように社会的情動が発達していくかを理解し、保育者としてどのようにそれを支えるか考察	こども同士のいざこざ場面の動画を観る	こども同士のいざこざの意義を考える
	5	乳・幼児の身体的発達及び運動機能の発達及びその特徴を学修	乳・幼児期の身体的機能の発達について調べる	乳・幼児期の運動機能の発達について調べる
	6	乳・幼児の身体的・運動的発達の個人差や環境による影響、心理的発達との関連について理解を深め、適切な関わりについて考察	身体的・運動的発達を促す要因について調べる	身体的・運動的発達の心理的要因を調べる
	7	ピアジェの理論について理解を深める。また、この理論について、最新の知見をもとに再検討する。	ピアジェの理論についてまとめておく	ピアジェの理論に対する批判についてまとめる
8	認知的能力の発達が始まる様子について学修	認知的能力の発達の基礎について調べる	認知的能力の始まりの時期の関わり方を考える	

	9	認知的能力がどのように発達していくかを幼児が形成する素朴理論を中心に学修	素朴理論について調べておく	自分が持っていた素朴理論をその影響について考察
	10	前回及び前々回の授業内容をふまえて、園生活のなかでどのように認知能力が発達するか、それをどう支えるかを学修・考察	幼稚園で育まれる認知能力について調べる	認知能力を伸ばす関わりについて考察
	11	言語発達の基礎となる人との関わりを中心に、乳幼児がどのように「言葉」の機能を知り、それを学ぶか学修	言語を学ぶ基盤となるものについて調べておく	言語発達の基礎作りの時期の関わりについて考察
	12	言葉がどのように発達していくか、その発達に影響を与える周囲の環境や人との関わりはどのようなものかを学修	幼児期の言語発達について調べる	幼児期の言語発達を促進する関わりについて考察
	13	乳・幼児期の言語的発達が児童期の生活や学習の基礎となることを学修し、適切な関わりについて考察	幼児期と児童期の関連について調べる	幼児期と児童期の関連をふまえた関わりについて考察
	14	乳・幼児期の学びに関わる理論について学修	乳・幼児期の学びについて調べておく	乳・幼児期の学びの理論を比較し考察
	15	乳・幼児期の学びの過程と特性をふまえて、保育者の適切な関わりについて考察	幼稚園教諭や保育教諭となったときの関わりを考える	これまでの授業内容を今後どう生かすか考える

使用教科書	保育の心理学(北大路書房)
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	小レポート14回	70%	授業内容への興味関心の度合いと理解度
最終レポート	30%	授業内容への興味関心の度合いと理解度	

科目名	こどもの理解と援助	科目ナンバリング	KC2E3E28		
担当者	竹下 健太				
担当形態	単独	単位数	1単位		
対象学科	こども学科	開設学年	3年次		
開講時期	後期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	選択		必修		ABCF
備考					

授業のテーマ及び到達目標	① 子どもの心身の発達と保育実践について理解を深める ② 生活と遊びを通して学ぶ子どもの経験や学習の過程を理解する ③ 保育における発達援助について学修			
授業の概要	保育の心理学Ⅰの学習内容を基に保育の現場における様々な課題について学生同士で討議させ、理解を深めると共に大学での学びと現場での実践の橋渡しとなる演習を行う。			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	こどもを共感的に理解する意義を学修し、理解するうえで大切なことは何か考え、演習する	共感的理解について調べておく	こどもを動画等で観察し内面をいろいろ推測してみる
	2	こどもを生活や遊びの中で理解し、その中で学びを支える関わりを考え、演習する	こどもの遊び場面を動画等で観て内面を推測	こどもの遊びを促進する関わりを考える
	3	こどもの発達における人的環境としての保育者という観点から適切な関わりについて考え、演習する	保育者が見守ることの意義を考える	こどもの安心感を高める関わりを考える
	4	こども相互の関わりと関係作りについて学修し、それをどう支えるか考え演習する	こども同士の関わり場面を動画等で観察し記録してみる	こどもの親和欲求を促進する関わりを考えてみる
	5	こども達はこどもの集団の中でどのようなことを学ぶかを学修し、その学びを支える方法を考えて、演習する	こどもの集団を動画等で観察し記録してみる	こどもが集団内で学ぶことについてまとめる
	6	幼児期に経験する葛藤やつまずきについて学修し、その意義や、それをどう支えるか考え演習する	自分のこどものころの葛藤をいくつか書き出してみる	葛藤中の幼児期の自分に会えたらどう関わるか考える
	7	乳・幼児期の物や人との出会いを理解し、保育の環境を構成する仕方を学修し、演習する	乳・幼児の環境内にあるものを列挙してみる	乳・幼児の環境内にあるものの影響を考察する
	8	入園・卒園等の環境の変化や移行がこどもに与える影響を学修し、そういった時期のこどもを支える関わりを考え演習する	人生で大きな環境変化があった時のことを書いてみる	環境変化に適応するために必要なものをまとめる

	9	こども理解に欠かせない観察と記録の方法を学修し演習する	こどもの観察法と記録法について調べてみる	こどもを動画等で観察し記録してみる
	10	こどもの観察と記録をもとに省察・評価する方法を学修し演習する	こどもの記録をよく読んで対応を考える	こどもの記録をもとに学生同士で対応を話し合ってみる
	11	職員間の対話の重要性を理解し、対話を促進する方法について学修し演習する	職員間の対話は何故重要か調べて考える	学生同士で職員間の対話を役割練習する
	12	保護者との情報を共有する重要性を理解し、その方法について学修し演習する	保護者との情報の共有が何故重要か調べて考える	学生同士で保護者との対話を役割練習する
	13	発達課題の理論や検査、その意義を学修し、それを現場で活かせるように演習する	いくつかの発達検査について調べ比較してみる	学生同士で役割を決めて発達検査の練習
	14	特別な配慮を要するこどもの理解と援助について学修し、それを現場で活かせるように演習する	様々な障害について調べてまとめる	学生同士で役割を決めて配慮や援助の練習
	15	発達の連続性と修学への支援について学修し、それを現場で活かせるように演習する	幼保小の連携について調べてまとめる	幼保小の連携を促進する方法を考える

使用教科書	子どもの理解と援助(北大路書房)
参考書・参考資料等	

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	小レポート14回	70%	授業内容への興味関心の度合いと理解度
最終レポート	30%	授業内容への興味関心の度合いと理解度	

科目名	生活科論	科目ナンバリング	KC2E3E29		
担当者	松岡 和男				
担当形態	単独	単位数	2単位		
対象学科	こども学科	開設学年	3年次		
開講時期	前期				
選択・必修区分	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
	選択	選択必修	選択必修		ABCD
備考					

授業のテーマ及び到達目標	<p>「学習指導要領の内容を理解し、指導法を探ろう」</p> <p>学習指導要領「生活科」の指導内容をもとに、学習指導計画・支援計画を作成することができる。</p>			
授業の概要	<p>学習指導要領の内容を読み解くことを通して、身に付けさせたい資質能力についての理解を深める。</p> <p>また、事例を参考にいくつかの題材の指導計画を作成することを通して、地域や園の状況、子どもたちの発達状況により配慮すべき点や支援のあり方を理解し、具体的方法を身に付ける。</p>			
授業計画	回	学習内容	事前学習	事後学習
	1	オリエンテーション * 生活科と育てたい力について * 生活科改訂の基本的な考え方 【映像資料】	シラバスをもとに、 学習内容の見通し を立てる	学んだことをまとめる
	2	幼児期の特性と幼稚園教育の役割について * 幼児教育と領域「環境」との関連	保育内容「環境」 の授業内容につ いて復習しておく	幼児教育の特性 についてまとめる
	3	生活科における指導計画と学習指導の基本的な考え方 * カリキュラム・マネジメント、指導計画作成	「カリキュラム・マ ネジメント」につ いて読んでおく	指導計画の作成 方法について復 習する
	4	生活科における年間指導計画の作成① * 児童への配慮事項 * 地域の環境と内外の教育資源の活用	学習指導要領解 説の該当箇所を 読んでおく	配布資料を読み 直し、整理しておく
	5	生活科における年間指導計画の作成② * 各教科及び幼児期の教育との関わり * 授業時数の適切な割り振り	学習指導要領解 説の該当箇所を 読んでおく	配布資料を読み 直し、整理しておく
	6	単元計画の作成① * 内容の組み合わせ * 単元の構想と単元計画の作成	学習指導要領解 説の該当箇所を 読んでおく	単元計画につい てまとめる
	7	単元計画の作成② * 低学年特有の発達・成長への配慮 * 幼小連携と教育、学びの萌芽と環境構成	幼稚園教育要領 解説の該当箇所 を読んでおく	配付資料を整理し ておく
8	単元計画の作成③ * 体験と事例をもとに部分指導案 →グループ活動による指導案作成	心に残っている 「生活科」の授業 について振り返り まとめる	本地の学びをもと に、自作の単元計 画のテーマを決め る	

	9	単元計画の作成④ * 学習評価の在り方(グループ活動) 模擬保育を事例とした計画・実践・評価	幼稚園教育要領 解説の該当箇所 を読んでおく	自作の単元計画 を評価の視点で 見直す
	10	学習指導の進め方① * 地域環境と文化理解、行事の意義 【情報端末を利用した情報収集】	児童の教育に関 わる様々な関係施 設について調べる	行事の意義や異 文化理解につい てまとめる
	11	学習指導の進め方② * 指導体制と年間の見直し 【グループによるプレゼンテーション準備】	児童の教育に関 わる様々な職種の 職務について調べ る	学びのまとめをす る
	12	学習指導の進め方③ * 試行錯誤やくりかえす活動の設定 【プレゼンテーションソフト活用、発表】	学習指導要領解 説の該当箇所を 読んでおく	学びをもとに自作 の単元計画を見 直す
	13	学習指導の進め方④ * 支え合い交流する場の工夫 * 振り返り表現する場の設定	学習指導要領解 説の該当箇所を 読んでおく	学びをもとに自作 の単元計画を見 直す
	14	学習指導の進め方⑤<児童理解と配慮事項> * 児童の多様性を生かし、学びをより豊かにするために	幼稚園教育要領 解説の該当箇所 を読んでおく	配布資料を読み 直す
	15	自作の題材指導計画の見直し<グループ活動> * 同じ題材のメンバーで検討会を実施 各自の指導計画の見直しと改善	自作の題材指導 計画を作成してお く	検討会での学び をもとに、指導計 画を完成させる

使用教科書	改訂小学校学習指導要領解説 生活編(最新版)(東洋館出版社)
参考書・参考資料等	平成29年度告示「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」(チャイルド)

成績評価基準	評価方法	割合	評価のポイント
	定期試験	50%	課題についての内容充実、自分の考え
毎時の振り返りワーク	40%	内容理解の深さと自分の考え	
平常点	10%	積極性、出席時数は、4/5以上が必要	